

(様式第4号)

上田市公立大学法人評価委員会 会議概要

1 審議会名	上田市公立大学法人評価委員会 (第1回)
2 日時	令和5年7月4日 午前9時30分から午前11時40分まで
3 会場	長野大学4号館 教授会室
4 出席者	田村秀委員長、鳥居希委員長職務代理者、佐藤明生委員、城下徹委員、西牧敦子委員
5 市側出席者	大矢政策企画部長、水野学園都市推進室長、掛川学園都市推進担当係長、倉澤主査
6 公開・非公開	公開 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 一部公開 ・ 非公開 理由：市の機関の内部における審議、検討又は協議に関する情報であって、公にすることにより、率直な意見の交換若しくは意思決定の中立性が損なわれるおそれがあるため。
7 傍聴者	0人 記者 3人 ※説明者として、公立大学法人長野大学関係者出席
8 会議概要作成年月日	令和5年 7月5日

協 議 事 項 等

1 開会
2 議事
(1) 令和5年度 公立大学法人長野大学の業務実績に関する評価について (資料1)
○資料に基づき、事務局が説明
(2) 公立大学法人長野大学 令和4年度業務実績評価報告について (資料2)
○資料に基づき、法人が説明
(委員) 令和3年度の自己評価と評価委員会の評価が異なる点が複数あり、令和4年度の自己評価も令和3年度の自己評価と同じになっている。昨年度から評価が上がった理由は、研究指標は作成中とのことだが、昨年しっかりやっていくとの回答があったにもかかわらず、資料が出てこないのはどういうことか。研究力が上がっているか確認したい。
(法人) コロナが収まったことで、学生の活動が活発になり様々な取組を行えたため a 評価となっている項目がある。 研究力は上がったとは言えない。外部資金で大型のものが採択されているため、金額面では大きく変わっていないが、科研費の申請率や採択率は下がっている。
(委員長) 教員から業績を提出させているはずなので、これをデータベース化できれば良い。
(委員) コンプライアンスの問題。項目No.64の自己評価 a とあるが、係争中事案があるにも関わらず、問題が発生していないという理由を教えてほしい。 国際交流について、クライストチャーチ工科大学以外にも交流が行われたことは理解しているが、実例としてどう捉えているのか。昨年時点では進展がなかったはずだが、この間どの程度話が進んでいたのか。
(法人) 研究におけるコンプライアンスを年度計画に記載している。係争中に関することは研究倫理とは別の問題のため、このような評価となっている。

クライストチャーチ工科大学との交渉は継続して行っており、意思疎通ができていた。協定締結後の本学のプログラムについても問い合わせがあり、調整していたが、先方の経営統合により交渉が不可能となった。英語圏はクライストチャーチ工科大学のみならず、その他でも交流を検討している。

(委 員) 外部要因で上手くいかなかった点についてどう捉えているのか。もう少し早い段階で経営判断することはできなかったのか。

(法 人) 判断が難しかった。  
研究者同士の交流があつて海外留学や交流に発展するはずとの指摘も理事会でされている。今後はこれを抜本的に変えていきたいと考えている。

(委 員) 学生の県外出身率が増えているので、地域就職率が下がっているのはわかるが、年度推移がわかるよう就職状況全般のデータを示してほしい。項目No.65, 66地域づくり総合センターの表記は、センターの役割を見える化してはどうかとの提案をしたが、前年度の延長となっており、抜本的な変化が読み取れない。これについてどう認識しているか。

(法 人) センターの活動は、延長線上にとどまっているのが現状。昨年はセンター長に外部人材登用想定 of 制度改正を行ったが、センター長不在であった。令和5年度に入り外部人材を登用した。

文系学部なので、これまで地域産業界との連携は十分ではなかった。現在、理工系設置に向けて企業を訪問している。企業との連携は、教育にも大いに関わるので、センター長を学長特別補佐に任命し、地域づくり総合センターが教育と研究両方に関われるよう体制を変更した。

(委 員) スマートフォンの機能を使える学務システムを導入したとあるが、学生からの評価で使いにくいという意見があった。学務システム導入の目的は学生の使いやすさの向上であるので、この点の評価はどう考えているか。

(法 人) 導入当初は教員等に一部混乱があり、学生からも意見が出ていた。カスタマイズが自由のできるので、学生の意見を聞きながら改良を進めている。

(委 員) 項目No.28 キャンパスミーティングは、内容として適切なのか、他に重要な視点があるのではないかと感じる議題がある。また項目No.35 も同様。やったから a という評価は違うのではないか。

項目No.132 ハラスメントが発生すれば c 評価となる。結果によって評価が決まるのではないか。

項目No.80 国際交流も去年より成果があるのはわかるが、どのような研修内容か。

(法 人) 議題は細かな内容になっている部分はある。LMS への指摘など学生から実質的な問題が提起されるようになってきている。このほか、授業に対する学生の意見を行く懇談会を別途実施している。卒業生アンケートはディプロマポリシー(DP)に対する到達度を学生に自己評価してもらうために実施している。DP は容易に変えられるものではないので、すぐに成果に結びつくものではないと認識している。

ハラスメントについてはご指摘のとおり認識している。事案発生後に発生後の対応体制と防止体制を整え周知を行った。

シンガポールやカンボジアは国際交流が目的で 2～3 週間。カナダは語学留学を年間通して行った。

キャンパスミーティングは学生にとって学長と接する貴重な機会。何かテーマを設定して、学生と一緒に語る会を実施していきたいと思っている。

(委 員) 大学院の定員状況は計画と比べてどうか。

(法 人) 大学院の定員未充足は本学の課題である。内部進学者がいないことも原因の一つ。入学金や授業料免除等の経済的支援の制度を整えている。

(委 員) キャンパスミーティングの学生の参加者数は十分なのか。また、レントゲンや健康診断の受診率はこの数字で大丈夫なのか。昨年より良くなっている部分があるが、絶対評価として昨年より良くなっているという視点での評価が必要なのではないか。

(法 人) キャンパスミーティングは、学生自治会の意見を聞き進めてきているが、関心のある学生はもう少しいるのではと思う。学生の要望に対応できる形で進めていきたい。

(委 員) ジェンダーバランスの問題。どういう考え方に基づいて評価しているのか確認したい。令和4年度は問題ないと捉えているのか、他のところでカバーしているから b 評価としているのか。

(法 人) 4 年度に次年度の審議会委員に女性委員が就任することが決まっていたので、この評価とした。

(委員長) 各委員は評価にあたって質問や確認したい点を事務局に提出する。大学側はこれに対する回答を提出してほしい。

### 3 報告事項

(1) 令和4年度財務諸表等について

(2) 令和5年度公立大学法人長野大学 年度計画について

○資料に基づき、法人が説明 委員から質疑なし

### 4 業務実績評価に向けての意見交換【非公開】

5 その他 なし

6 閉 会